



様々な形状と本来の機能を熟知して「屋根のカタチ」にこだわろう!

屋根のカタチは、単なるイメージだけでなく様々な目的があります。デザインの要素のほかに、雨・風・雪等から家族の暮らしを守ることが一番の目的となります。その目的を最適化させるために、建物の種類・大きさ・気候・風土などによって選択されます。今回は一般的な屋根の形状を紹介します。

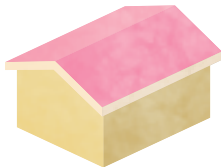


屋根にはこんなに多種多様な種類があります。

基本のカタチ

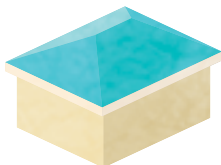
● 切妻(きりづま)屋根

最も多く代表的な屋根の形状が切妻屋根です。頂上から地面に向い左右両面に屋根が伸びるシンプルな形状になっています。構造が単純で工事が複雑にならないため、コスト面でもメリットがあります。和風・洋風どちらの住まいでも対応でき素材も選びません。片側の屋根が南側に向いていれば、太陽光発電を搭載するのにも適しています。



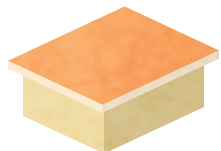
● 寄棟(よせむね)屋根

切妻と違い四方向に傾斜がある屋根です。そのため、どの方向からの雨や風、強い日差しも防ぐことができます。切妻屋根と同様に最も多く採用されている形状になります。デザイン性にも優れているところから、最近ではハウスメーカーの家に採用されることが多く、住まいに落ち着きと高級感を演出することができます。



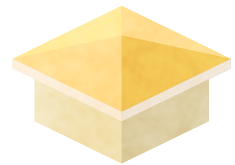
● 陸(りく)〈フラット〉屋根

傾斜がなく平らな形状の屋根です。プレハブや鉄骨構造に用いられ、木造ではほとんど採用されません。メリットとしては屋根がフラットなため、屋上の利用が可能になります。街なかの3・4階建て住宅では屋上が見晴らしのよい空間となり、屋上庭園や屋外リビングとして有効活用されています。



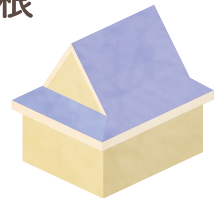
● 方形(ほうぎょう)屋根

基本的な形状は寄棟と良く似ています。異なる点は寄棟屋根は頂上が線になっていますが、この方形屋根は点になっていることです。そのため、左右に流れるラインが美しい落ち着いた外観デザインになります。また、四方向に同じように傾斜があるため、雨や風に強いというメリットもあります。様々な素材にも対応できます。



● 入母屋(いりもや)屋根

重厚で高級感があり、伝統的な和風建築に多く採用されています。本格的な和風の邸宅などでよく目にすることがあります。寄棟屋根の上部に切妻屋根を合わせたようなイメージです。通気性や断熱性に優れ、耐久性もあるため、機能的には優れた屋根といえます。ただし、形状が複雑なためコストが多少高くなります。



変化したカタチ

● 片流(かたながれ)屋根

名前の通り片方にだけ傾斜したデザイン性の高い屋根です。オシャレな洋風の住宅やコンパクトな住まいにもピッタリです。コストが安いのもメリットです。



● 招き(まねき)屋根

基本は切妻屋根ですが、片方を長く、片方を短くしています。デザインは和風よりも洋風にマッチします。通気性も良く、ロフト等を作ることでもできます。



迷ったら経験豊富な
ハウスメーカーに相談しよう!

